



天然記念物

1 4. おおたに 大谷ののとキリシマツツジ 3株

■指定年月日 平成18年4月7日(2006) ■所有者 個人

■所在地 大谷町57-33甲(西谷)

大谷町にしたに西谷地内の池上家いけがみにある「大谷ののとキリシマツツジ」は、江戸時代末期に、能登町宇出津にて入手した古木を船で運んだものである。

各株の樹幹は、根元から10本前後に分岐しており、樹高3.5～4m、枝張り3～5.1mを測る。また、3株を合わせた枝張りは9～12mであり、幹や枝が四方に大きく延びることから、開花時期には極めて壯観を呈する。樹齢は300年を超えるものと推定される。開花時期は、5月上旬から中旬であり、鮮やかな深紅色の花が能登の山野を華やかに染めあげる。

江戸時代、全国的にツツジの栽培が盛んとなった際に、九州南部などから能登に伝えられたキリシ

マツツジが、能登の厳しい風土にあわせて変異し、今日では九州南部のキリシマツツジとは、花の大きさや形状などで異なる特徴をもち、「のときりしまツツジ」となるに至ったと考えられる。

「大谷ののとキリシマツツジ」は、歴代の所有者が大切に守り育ててきた能登地方を代表する優れた樹形を持つ名木であり、今後もその保護を図ることが必要である。